

「大腸がんにおけるヒストン脱メチル化酵素 JMJD3 と関連分子及び microRNA の解析」  
のお知らせとお願い

●研究の目的

この研究は、大腸がんの特徴を解析する研究です。正常細胞の DNA がダメージを受けるとがん化が起きます。実はその経路以外に、DNA を修飾している物質(ヒストンや microRNA)に変化が起こることでもがんの特性を獲得するといわれています。

今回の研究では、大腸がんにおけるヒストン修飾の変化(メチル化や脱メチル化)や microRNA の影響を研究することで、将来的にがんの予防や治療のターゲットとして確立していくことが目的です。細胞に対する好ましくない修飾の変化を正常化することができれば細胞のがん化を抑えることができる可能性があります。大腸がん患者さんにとって効果のある新しい治療の選択肢が増えたり、健康な人が大腸がんになることを予防できたりすることが期待されます。

●研究の対象と方法

以前に手術で摘出し当院に保存してある大腸癌の病理標本や、血液からとった血清を利用させていただきます。この病理標本や血清は、すでに患者さんの病期の診断等や血液データの確認に使用されたものです。この研究では、腫瘍細胞の遺伝子の状態、遺伝子発現の測定のために腫瘍組織や血清から DNA や RNA を抽出して使用します。また、腫瘍組織中のある特定のタンパク質を抗体という試薬を用いて染めることで、タンパク質の量を調べます。

●保存してある病理標本を研究に用いることについて

この研究は、個人に適した大腸がんの新たな予防・治療法を将来可能にするためには重要かつ必要な研究であり、当院に保存してある病理標本及び血清を用いることが不可欠であると、当院の倫理審査委員会により判断されました。

一方、本研究では病理標本の提供者に危険・不利益が及ぶ可能性はありません。その理由は、  
①病理標本及び血清を厳重に匿名化して研究を行うので、プライバシーの侵害が生じる恐れがないこと、

②保存してある病理標本及び血清を用いるので提供者に新たな身体的負担がかからないこと、です。

また、患者さん等からのご希望があれば、その方すでに保存してある病理標本等を研究に使用しないようにします。

●利益相反について

本研究計画は、国から交付された研究費(運営費交付金、科学研究費など)によって行われる予定ですが、本研究に携わる全研究者によって費用を公正に使った研究が行われ、本研究の公正さに影響を及ぼすような利害関係はありません。

以上、ご説明した研究に当てはまると思われる方で、当院に保存されているご自身の病理標本を研究に使わないで欲しい、というご希望があれば、担当医までお申し出いただきますようお願いいたします。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、当院におけるご自身の診療には何の影響もなく、不利益をこうむることはありません。

●照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

熊本大学医学部附属病院 消化器外科

徳永 竜馬

住所：熊本市中央区本荘 1-1-1

電話：096-373-5212

FAX：096-371-4378